

中国の景気回復は緩やか

ポイント① マイナス成長に落ち込む

4月17日に発表された中国の2020年1-3月期の実質GDP（国内総生産）は、前年同期比-6.8%と2019年10-12月期の同+6.0%から大幅に落ち込み、統計開始以来、初めてのマイナス成長となりました。また、実質GDPよりも経済の実態を表わしている名目GDPも、1-3月期には同-5.3%と下落しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中国景気が一気に失速したことがわかります。

ポイント② 鉱工業生産のマイナス幅縮小

ただ、感染が最初に生じたと思われる武漢の封鎖などの厳しい移動・行動制限措置によって感染拡大が大きく鈍り、3月途中から制限措置が緩和されて経済活動は徐々に回復に向かっています。GDPと同時に発表された3月の鉱工業生産は、前年同月比-1.1%と1、2月合計の同-13.5%からマイナス幅が大きく縮小しました。

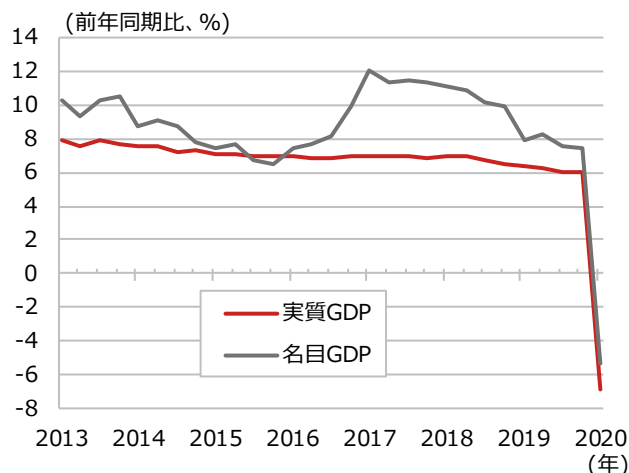
ポイント③ 本格的回復は来年か

一方、3月の小売売上高は、前年同月比-15.8%と1、2月合計の同-20.5%からマイナス幅が縮小したものの、依然として二桁マイナスでした。制限措置の緩和で生産活動は回復してきましたが、人々が買い物や外食などで外出するのを控える傾向は続いていることを示唆しているようです。

多くの国・地域でまだ制限措置がとられている中、中国経済が相対的に早く回復に向かうことは間違いないでしょう。しかし、海外景気の悪化で中国の輸出が回復しにくいこともあり、今年後半も中国の景気回復は緩やかなものに留まって、回復が本格化するのには来年になりそうです。

図1：中国の実質・名目GDP

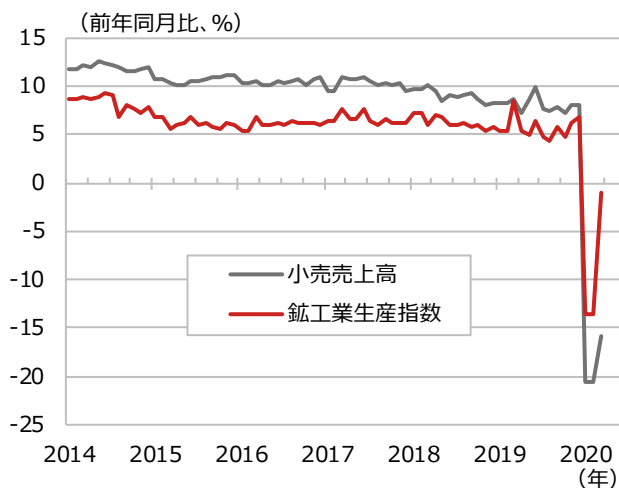
期間：2013年1-3月期～2020年1-3月期、四半期



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：中国の鉱工業生産指数と小売売上高

期間：2014年1月～2020年3月、月次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月29日 米GDP（1-3月期、速報値）、米金融政策発表
4月30日 ユーロ圏GDP（1-3月期、速報値）、ユーロ圏金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。